



### 野球に導かれた半世紀

私の人生など褒められたものではありません。ただ一つだけ挙げるとすれば、私の精神的な模範であり続けた野球のおかげで、どんなにツライ峠道も乗り越えてこれたかなと。それぐらいなものです。

大正13年生まれの父（創業者・浜口秀雄氏）は、瀬戸内海に浮かぶ小さな島、山口県周防郡大島町小泊の出身です。兄が先に来道し紋別市で仕事をしていたため、それを頼りに昭和29年、同市に移り住みます。やがて兄が紋別浜口電気工業を開業。父も仕事を手伝いながら、昭和36年に「紋別浜口電気工業雄武支店」を出店し、それをキッカケに紋別からの通いを止め、一家で雄武町へ引越しました。私が小学校に入る前のことでした。



左/雄武町ふるさと100メモリアル広場照明整備工事 盤内の結線  
右/雄武浄化センター水処理設備改築更新工事 既設ケーブルの撤去

# 浜口隆さん

有限会社 浜口電気商会 代表取締役

礼儀正しさと我慢強さ。

協調性と連携プレー。

軸のブレない野球道がいまも背骨に通っている。



雄武町学校給食センター  
建設工事（電気設備）  
動力設備機械室  
動力盤の取り付け状況

以後、雄武で過ごした小中学校では、もっぱら野球に明け暮れました。今は雄武高校の方が野球では有名ですが、当時の雄武中は北海道大会出場の大連校。そんな私が高校へ進学する前年の昭和45年、父は兄の依存から離れ「浜口電気商会」として独立しました。

一方で私は、家業が電気屋というだけで、深く考えずに北見工業高校電気科に進学しました。結果的にそれが運のツキだったようです。実は私は甲子園球児です。2年の時、出場を果たしました。とは言っても野球部に入るつもりなどなかったのです。たまたま入部を希望していた友達とグラウンドでキャッチボールをしていたところ、恐い先輩に見られてしまって。半ば脅されるようになって入部してしまっただけです。ちなみに甲子園での対戦相手は石川県代表の星稜高校。8対3で負け、1回戦敗退でした。それよりも何よりも、1番シヨートで出場した私は、4打数0安打2三振1エラーという恥ずかしい結果を残してしまいました。

それで野球から身を引けば良かったのですが、凝りもせず札幌大学に進学し、野球部に所属することに。ここまでくるともう完全に野球バカ。経営学科と言うより野球学科に進んだようなものでした。当時の札大もまた強く、春の全日本大学野球選手権大会、秋の大会の明治神宮杯に出場できなかったのは一度だけでした。そうして4年間の野球漬けの生活を終え、就職という時になると、まさかの事態が待っているのです。言い方は変ですが、遊ぶ暇もないほど野球道に生きる札大野球部の就職率は100%。みんな良いところに就職が決まり、かく言う私も某市役所の採用試験に無事合格することができました。



## 誠実に、確実に

ようやく親の腰かじりから抜け出せるのですから、ともかく真先に両親に喜んでもらおうと報告したのです。ところが、待っていたのは父からの帰れコールでした。驚きました。なぜなら私は二男で、4つ上に兄がいたので。家業は彼が継ぐものと信じて疑いもなかったのです。なまじ高校で電気をかじったのがイケナかったのかも知れませんが、帰りたくなかったのですが、父の理屈にも一理ありました。

ちょうど私が入社した昭和53年は、公共工事がぐんぐん増えはじめていたのです。当初はJ・Vとして、やがて単独で入札するようになれば、父は自分だけでは対応不十分と考え、私を必要としていたのです。大掛かりな電気を必要とする漁組さんも水産加工場も活気にあふれ、機械化する酪農家も増え、それらに 대응することができた。社内体制づくりが急務なのでした。そうは言ってもイヤイヤ帰ってきたのですが、そこでもまた父に打ちのめされるのでした。野球しか知らない私に「任せた。全部おまえがやれ！」だったのです。



長男の大毅さん。まもなく三代目。

ひとつだけ、とても父に感謝していることがあります。裕福では決してありませんでしたが、私たち兄妹4人を全員私大へ進学させてくれたことです。同時に、雄武町電気工事組合では最も加入が遅かった、言わば新参者の我が社を今日まで育て、支えていただいた雄武町のみなさまにも感謝しています。その意味で私は父の代の人たちから「良く頑張ったな」「立派になったな」と言われることが、何よりも嬉しいのです。少しは親孝行できたのかな、と思ったりするのですが。

気がつけば私もあの頃の父のようになり、現場から引退すべきなのかも知れませんが、実は、野球バカは親バカとして我が家に伝染しました。札大野球部OBの高石先輩が、当時滝川西高で監督を務めていた時、彼になら任せられると思い、長男を野球のために進学させました。その甲斐あって、親子二代で甲子園を経験することができました。しかも大学は私と同じ札大。

その長男も平成22年に我が社に入社し、いまではもう何でも任せられるまでに成長してくれました。野球はスポーツですが、厳しい精神修業でもありました。私の背骨にも一本筋が通っているかも知れません。礼儀正しさと我慢強さ。団体競技ゆえにチームプレーを重んじますが、例えばそれは仕事の段取りや分担作業に大いに役立ちました。協調性と連携プレーも社風として息子の代に引き継がれるものと信じています。

社員は私も含め全員で8名。家内も経理を担当しています。彼女とは雄武中学の時の同年代なのですが、あの頃は40人超えの教室が3クラスもありました。それが今では30数名1クラスだけ。著しい人口減少を目の当たりにしてきましたが、それでも今後どんな時代になっても電気はなくなりません。誠実に、確実に仕事をしている限り、浜口電気商会は雄武とともにあり続け、電気を灯し続けます。



防犯灯LED化整備工事 既設灯具の取り外し



雄武浄化センター  
水処理設備改築更新工事  
ポンプ制御盤の撤去作業